



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	都市社会学：昭和28年度特殊講義案
Author(s)	鈴木，栄太郎
Description	東洋大学社会学部大学院社会学研究科講義案。都市の新形態、巨大都市。
Issue Date	1953
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/77383
Type	manuscript
File Information	N022_01S28.pdf



NOTE BOOK
Special Quality

都市社会学
二十八年
特殊讲义案

都市の形成

巨大都市

HIGH CLASS



No.123

式元市

元市

国市行

国市の所

市山日市

市海市

本都市は世帯と特殊な

なつてゐる大抵二つ

巨大都市は交通都市である

特殊機能都市である

として下の三つ

以外にはあり得

ない

特殊機能都市

特殊機能都市

特殊機能都市

特殊機能都市

一、巨大都市は都市機能として四半一

二、巨大都市の地理的構造

三、巨大都市の社会的構造

四、都市機能都市の特殊機能

五、住宅都市又は通勤都市と田

園都市又は衛星都市

六、通勤都市は都市か。都市か。

七、工場都市は都市か。都市か。

八、有機的構造都市としてのメトロポリ

タンコングロブ

九、都市の発展と大都市

都市の発展と大都市

一、巨大都市は都市後合伴

既に都市に於いて此等の規模の
分類の項に於いて述べた通り、巨大

市は都市後合伴であつて、第一

都市は巨大都市の中心とな

つても思ふに、大都會に於いて

きつたといふことを述べた。大都市

は都市の後合伴といふ一つの地域の

統合の統一を形成するもので

あるが、これは文化が特に交通に

関する文化が今日の形に発達した

段階に及ぶ、つまり始めて発生した

思ふに、第一、地域の統合の

統一である。

中心都市の周辺に若干の都市が
群生し宛々恒星の周りにあるの
衛星が従属して片々散らばるの
統一である。

周辺都市より中心都市に通勤
通学する者が多いため、中心都市
の通勤圏・通勤圏がそれぞれ
周辺都市に及んで片々散らばる
い。中心は周辺都市の住民の
大部分の職場が中心都市に
あるため、周辺都市は中心都市の

思ふ寝室と考へる。場合とあ

る。や道とやふとね

道地と云ふ現象はその職場と自

分の世帯とかがあり、その生活と

を意味する。職場は世帯とは異なる

一日の中にあるものか、毎日

その一部か、甲の都市一部、乙の

都市にまたある。意味するものであ

か、かくの如く世帯と職場が別々の

都市に存在する場合には甚だ整

然と云ふ又発達した交通機関の

存在により及んで始めて可能に

あゝ。

かくの如き同化^は現代の交通文化

を改^ありてゐるはじめて可能にな

つたのは~~必然~~当然である。それまで

如何に都市^{（家）}が^一場^二大^三しても都市は

何れもその中に^{（住居）}世帯と職場を共に

包^{（）}含^{（）}してゐた。

今日では何れの都市にも^{（おこ）}これに

する職場は~~（）~~遠^{（）}郊^{（）}外^{（）}者の中の

若干は附近の都市が村落の住

民である。居住と職場とは必ず

も同一の可^{（）}分^{（）}離^{（）}れ^{（）}ある必要なく

相互に匹へる集落であり得る
ある。通勤の匹へるはたゞその時
が、勤務に支障ないを限るとす
る。であるから、片道の匹へる一
二時を要する場合もある。
二時以上の汽車通勤を得る匹へ
るとは、マイルに及ぶ。それ
か、通勤圏内にある地域である。
それは当然に大都市の圏を
構成し得る。圏である。けれど
周辺都市より通勤は、大都市に向
おもひ丈で済ない通勤である。二時

以て、それは何れの都市に向ふや
かある。そこに通勤する人について
考へても今日では中心都市の周
にある人の往復は概ねの方向に向
つて居る。中心都市の周辺にある
交通機関の数の多さからして甲の
都市より乙の都市に向ふ通勤者
もそれは乙の都市より丙の都市に
向ふ通勤者もある。けれどもその
通勤はそれ交通機関の存在
と範囲内にある限りである。
その範囲外には及ぶことは

なり。通称、政令通称、その他
相互の相互の交通はそのおこる交通
路線に収められ、よりあつてある
来、中心都市の周辺に、
出来の如くほりまわされ、
して、補完道路の線が及んで、
は、範囲は自ら一つの統一を
とる。この統一が、こゝろ及んで、
よかば、地図の上を、一と、
の範囲の内に、大々の都市、
都市の周辺に、群、かつ、
大都市の外、地、か、
ある。

三、巨大都市の社会構造

第一都市に於て既に言いたく急激の
発展は巨大都市に於ては如何に
現れて来るか。又第一都市に於て
はついでと云ふ程に於ては其
所定の巨大都市に於ての所
と云ふ発展は何であらうか。
第一に第一都市に於ては其の所
在の発展が巨大都市に於ては、
特殊な形で現れて来り、発展は
次の如きものである。

一、第一都市の外周に一般に見られる
様子の非都市的な社会圈内に

都市と都市との
交流

他の都市が存在しそれらの都市
もそれらの外周に存在する

しをみる

二、都市と都市との間に一般に

交流があることは甚だしく近距離
であって都市間の交流は混同され
やすい

やすい

三、都市間の交流が一つの文化生活

水準も形式も数回のものより強い

区別がある

四、それらの都市は地域的に近接し中に
都市の外周にあり一つの都市

連合体を形成し都市としての分業
も出来るのであるから、其分業とし
この統一性も甚く重要であるが然し
可成り都市の連合体であるという
の都市を都市たるの本質を失つ
てしまつてしまふのは望み。
五、財源の事、藩政を失つてしま
うと、封建的生活者も当然に破れて
行く。その如く、^{種々の}田舎生活者の
生活が破れてしまふのは、^{種々の}封建的な
の概念が不正曲せられたる原因であ
るからである。

周辺都市は主として中心と又二次
的^に他の周辺都市と通^じる^たの
関係を持つ^て片^にに特^にに足^るわ
る^のであ^るが、^此の^類は
中心都市を中心とし^ての^人の^の存在
圏を構成^して^るものである。
^日々の^大量的^の交通^の網^はは^民道
交通^の網^の上^にた^るを^主に
に^思ふ^ふものである。但^しこの都市
か^は中心都市^には^完全^な生活^を
つ^いて^は持^たない^依存^性は^先活^の網^にあ
る。

[illegible]

同子

次に市町村の区分は、中心都市と周辺都市との多様な関係、同様に、本市の本支の区分の整備は、基となるべきが交通機関の発達のみなく、同一市内を異に、ぬれあつて、片づけられ、この区分は大都市と中都市の間に一般に、小の区分を、近者より、つぎ、この、あ、ま、で、同一市内の区分と、市への、は、誤認、である、周辺都市を中心都市と、混同、せしむ、大なる、理、也、を、か、し、。

同一文化様式

中心都市・周辺都市も社会システムが同一である同一の文化水準・文化様式を有する可成り広がりへの独自性を失失してしまふ現象の一つである。

然しこの失に因する現象は異常である。父も母も職場として子供は通学校のために中心都市に移動し、妻は娯物や映画のみに属し中心都市のオアシスは存在しない。この中に女性に求められたのは、夫のかくの如き家族に代って居候する。

周辺都市と中心都市との何れ
に生活の本拠ありと認めざるを
か。もしこの家族に第一生活地は
ありとすればその家族は互の周
に都市と所居する。東京圏
所とて是よりある。第一
生活地は認めかたいたうは
その家族は出早や東京圏
生活より逸脱した遺民的な
生活より外は無い。これ
が第一生活地と認めざるを
ぬ家族が果してあるならい

夏落同の如く、
五落同の文妃先治外準也様式を
先夜すに到るは容易に成るべし。

政に^外周都市の回には分業的機能
を有してゐる。これは昭和三十九年
に水戸をこね。このころは氏大都市
統一を統一化と見てゐる。最も
重要なる点である。
然し外周都市に特殊機能がある
ものとして、その特殊性は居住
を主とする専攻が職場を主とする
専攻が仲介を主とする。果敢
かの五つの種別以外ではない。
大大阪圏内の豊中市は居住
を主とする。都市として大企業を

周囲の川崎市は職場をえと
すゝ都市。又新伊東は
任勤良をえとす。都市と若へ
るやあきま。
けれど、特産地職有る者の何れ
う都市は都市車道記をえ
して、居住と職場と休養の三
の機能を常に兼、程々近は
たふして、み、うは、記、す、す、
て、あ、つ、お、り、如、何、に、換、機、能、し、
し、最、低、必、要、量、の、専、都、市、機
能、は、失、は、れ、る、と、思、ひ、れ、る。

△本邦

今日の都市住民の生活は戦場の生活と
 世帯の生活の二つに根本的に分れてゐる。
 然し生活の時間としては職務の時間と
 睡眠の時間の外に休息の時間がある。
 あゝ此休息の時間は睡眠と共に
 世帯に在る時間より足るべきである。
 一週又は一月又は一年の周期にお
 いて休息の設備がある場がある。
 郊外に在る定宿場である。かくの如き場
 合は同様の休息が大都市に在るに
 大なる距離的設備を必要とし、それ
 等の機械的都市を築き出さねば
 得ない。

都市人の日常生活の時間から考
 へて職務の時間、世帯での睡眠の
 時間と何らかの休息の時間とは
 都市生活者の基本的三生活時間
 である。
 此三生活時間の中でその各々
 の場として職務、世帯、休息
 場の三つが基本的生活場となる。
 △
 交通機関の発達に伴ひ、職務
 の場所、世帯、休息場が分散した
 が、休息場所も分散して居る。

此は交通機関の発達によるに
つづいては、その型の都市が安全
に分化するに必要である。
然し大都市は色々の機能に分化し
た都市に成るとして、此五種の
分化は都市分化の基本的な
もので、その他の分化は枝葉の分
化に過ぎぬ。
然し長い下り生活の他の性質
があるに、この都市は容易に独
立した都市が成るとして、基本的
分化を完全に統一するに必要

「是れは、完全な地方自治都市
完全な職場都市、完全な休
養都市、成立した。これは容易に
了るにはあり、何れも、五つの
機能の一つの面を、あつて、あつて、
豊中市と川崎市と伊奈市の
間は、平中より、安価である。
機能の分化して、現段階にある」